

12本の数字が書かれたピンを倒していき、先に合計点が50点ぴったりになるのを競う、フィンランド発祥のスポーツです。得点を50点ぴったりにするため、どのピンを倒すか戦略を考えながら、子どもから高齢者までみんなで楽しめるスポーツです。



◎ 用具

- モルック 1本
- スキttl 12本
- モルッカーリ 1本
- 得点板

◎ 場所

屋外の場合、グラウンド、石の少ない土や砂地の広場、短く整った芝生・草地の広場などある程度平らで、幅6m、奥行き10m以上ぐらいの広さの場所が適しています。石がたくさんある場所、芝生が長い場所、アスファルトは不向きです。

◎ 人数

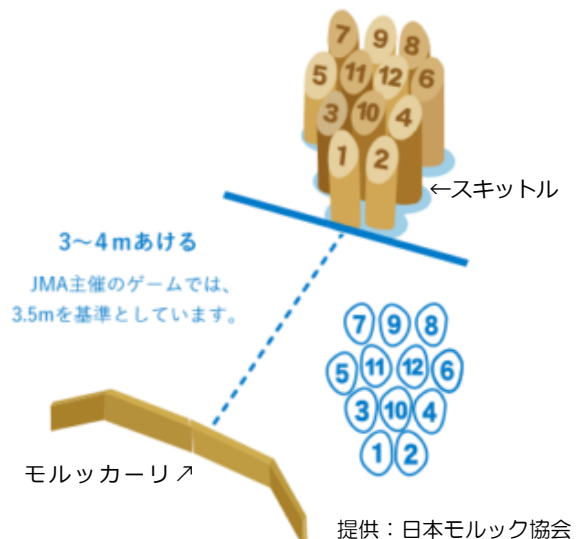
2人、または2チーム以上

◎ ルール説明

プレイヤーは、モルックと呼ばれる木製の棒を投げて、スキttlと呼ばれる木製のピンを倒します。スキttlが複数倒れた場合はその本数、1本だけ倒れた場合はそこに書かれた数字が得点になります。得点の合計を先にぴったり50点にしたプレイヤー（チーム）の勝利となります。

ゲームの進め方

1. プレーヤーの先攻・後攻を任意の方法で決めます。（チーム戦の場合は、チーム内の投てき順も決めます。）
2. モルックを投げる地点にモルッカーリ（右図参照。市の貸出用具には用意が無いので他のもので代用）を置き、そこから3~4m離れたところにスキttlを右の図の順番に並べます。これがゲームスタート時の配置です。投てき時にモルッカーリに触れたり、踏み越えるとフォルトとなり0点となります。（最初のプレイヤーが投てき後、1投ずつ交代して投げていきます。）



3. スキットルが複数倒れた場合はその本数、1本だけ倒れた場合はそこに書かれた数字が得点になります。完全に倒れたスキットルのみを数えます。モルックや別のスキットルの上に重なったものは数えません。
4. 倒れたスキットルをそのままの位置で立てて起こしたら、次のプレイヤーが投てきを行います。
5. ぴったり50点になったプレイヤーが出たら1セット終了です。
ただし、50点を超過してしまったら、そのプレイヤーの得点は25点に戻されてしまうので、50点ぴったりのプレイヤーが出るまで、ゲームは続きます。
3回連続で得点できなかった（スキットルを倒せなかった）プレイヤーは失格となります。そのラウンドでの以降の投てきは出来なくなり、得点は0点となります。

「この内容については、(一社)日本モルック協会の資料を参考に作成しています。」

